

香港日本語教育フォーラム

Vol. 4 (2021年4月)

発行：香港日本語教育研究会

目次

◆はじめに

P1

◆香港日本語教育セミナー
(2021年) レポート

P2

◆図書案内 by 斎藤誠

P8

◆香港日本語教育研究会
イベント情報

P12

◆投稿の募集

・ 質問箱

◆編集後記

P13



はじめに

「香港日本語教育フォーラム」第4号をお届けします。本誌は香港日本語教育研究会の会報誌であると同時に、香港の日本語教育を支える皆様の交流の場として、愛される存在でありたいと思っております。

本号は、2021年3月6・7日に実施された「香港日本語教育セミナー」を特集します。「日本語でのビジネスコミュニケーション能力の育成と向上—理論と実践」というテーマで、オンライン開催されました。世界20の国・地域から、1日目約140名、2日目約100名のお申し込みを頂きました。本号では、参加された会員のレポートを掲載しました。セミナーの様子が伝わればと思います。

また、香港理工大学の松本真澄先生に、セミナーを受けて、ご所属先で行っていらっしゃるビジネス日本語授業の実践をご寄稿頂きました。いろいろな学部の学生が日本語を履修する、つまり「多様な」学生が集まる環境下で「会社を作る」プロジェクトというとても興味深い内容です。ぜひご一読下さい。ご感想もお待ちしております。

今後とも会員の皆様のご支援とご協力をお願い致します。



【特集】

香港日本語教育研究会 香港日本語教育セミナー
「日本語でのビジネスコミュニケーション能力の育成と向上一理論と実践」

2021年3月6・7日（オンライン開催）

香港と日本のつながりは多岐に渡りますが、ビジネス面での交流も盛んです。そんな環境の中、「ビジネス日本語」はどのように扱われているのでしょうか。敬語などの言語知識やビジネスマナーを教えれば、それで十分なのでしょうか。今回のセミナーでは、「ビジネスコミュニケーション」をテーマに、仕事に必要な能力とは何か、どうすれば伸ばせるのか、その理論と実践をお2人の先生から伺いました。セミナー中、多くのキーワードが出ました。一例を挙げると、「学びの継続」「人材育成」「協働」「対話」「キャリア形成」「ケース学習」「課題達成プロセス」「SWOT分析」「TBLT」等々…。皆さんはどんなことをご自分の授業に活かしていきたいでしょうか。学習者の「深い学び」につながることに、このセミナーがお役に立てたなら幸いです。

※第1日目の動画、資料を公開しています。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/seminar/2021/Sakura2021.html>

【講演】2021年3月6日（土）午後2時～6時（香港時間）

講師①：近藤 彩 先生（麗澤大学大学院言語教育研究科 研究科長 教授）

演題：仕事で必要となる能力の育成：理論・企業・教育の融合

講師②：金 孝卿 先生（早稲田大学日本語教育研究センター 准教授）

演題：キャリア形成につながる日本語教育の実践デザインー協働学習の理念に基づいてー

【ワークショップ】2021年3月7日（日）午後1時～5時30分（香港時間）

講師①：近藤 彩 先生

演題：「ケース学習」で学ぶコミュニケーション：問題解決や人間関係構築を目指して

講師②：金 孝卿 先生

演題：課題達成のプロセスで学ぶコミュニケーション：SWOT分析を例に

本特集では、会員参加者の中から、振り返りの感想を寄せて頂きました。

※所属は当時。2021年4月現在、近藤先生は昭和女子大学文学研究科教授、金先生は麗澤大学国際学部教授です。



2021年3月6、7日に開催されたオンライン香港日本語教育セミナーに参加させていただきました。今回は仕事で必要となる能力の育成、キャリア形成につながる教育の実践がテーマで、所属機関でビジネス日本語に携わる機会が多い私にとって非常に勉強になるセミナーでした。

講演では外国人社員と外国人材を受け入れる企業の双方が抱える問題点や課題を明確にし、それらをいかに日本語教育の中に落とし込んで解決していくのかを丁寧にご提示くださいました。日頃感じていた、どうすれば学習者の職場での実践に結び付けられるのか、彼らの悩み解決の手助けができるのかというモヤモヤした気持ちに対して大きなヒントを与えていただきました。

ワークショップでは、日本の大学で実際にビジネス日本語を教えていらっしゃる方、日本に留学中の大学院生の方などとグループになり、とても興味深い意見を伺うことができました。特に留学生の方からは、外国人として日本で生活する上で直面した問題、そしてその問題をどう捉え、対処したのか、また自身が受けてきた日本語教育についてどんな考えをもっているのか、など率直な考えを聞かせてもらうことができました。

学習者が直面する様々な問題の背景には異文化だけではなく職場の環境などいろいろな要因があるにもかかわらず、私はこれまでそのような要因をそれほど重視せず、自分の経験だけに頼った偏った考え方、教え方をしていたのではないかと反省させられました。

近藤先生がご紹介なさった就労者に対する日本語教育指導者 Can-do Statement を使って私自身のこれまでを省察し、今後につなげていきたいと思いました。

牛上敦子 (Pasona Education)

今回2日間合計7時間30分のセミナーに参加して、とても勉強になったと思っております。今までビジネス日本語を教える場合、何を教えたらいいのかと思っていましたが、ビジネスコミュニケーションを教えようと思わなかった私は今回の講座に通して、教師としてのビジョンが広くなりました。

近藤教授と金先生の講座、そしてワークショップでは、ビジネスコミュニケーションというのは学習者によって重点が違い、単なる敬語など言語的な困難を乗り越えることではないと理解しました。

今回のケース学習では、職場にいる複数の人間の立場と気持ちを参加者と一緒に考え、自分以外の目線でケースが多面的に理解でき、トラブルのより円滑的な解決方法を習得したと思います。SWOT分析による課題達成は、アイデアを言語化にして、他人との意見交換や議論によって、言語知識をブラッシュアップしながら、仕事場で必要な聴解力、思考力、説得力が学ぶこと

ができると習いました。そのスキルを習得しておけば、日本語だけでなく、母国語のコミュニケーション力もきっと上手くなり、職場だけでなく、夫婦や親子関係にも応用できそうと考えられます。(笑)

今回のセミナーとワークショップでは動画やウェブサイト、テキストなど数多くのリソースが紹介され、とても参考になりました。

ホンコン人日本語学習者の視点から日本組織や日本社会での人間関係についてすこし深く考えることができました。これから教師として、漢字圏の学習者にそれを理解させようと思っております。有意義なセミナーを聞かせていただき、ありがとうございました。

Carmen Chu

(順不同、敬称略)

香港日本語教育セミナーに参加して

「香港理工大学 日本語副専攻ビジネス日本語における会社設立活動の考察」

香港理工大学 松本真澄

3月6日に開催された香港日本語教育セミナーに参加して、昨今のビジネス日本語の在り方や企業と教育現場の状況がよく把握できた。ご自身の経験を織り交ぜながらご講演くださった近藤先生、金先生に感謝申し上げたい。

手元にあるビジネス日本語教科書の多くが、状況に対する日本語フレーズを導入している。**Situational Functional** 日本語（ビジネス編）と言えるかもしれない。以前は何の迷いもなくそれらの教科書を使用していた。しかし、就職経験のない日本語副専攻の学生たちが「会社で働く」ということ、しかも日本文化という「異文化の中で働く」ということをどの様に理解しイメージしているのか疑問に思い、2012年から言語ではなく学生主体で活動する「会社設立」を取り入れてみた。今回のセミナーで、近藤先生が指摘された「働くことに関する自己概念の形成」「課題達成のための総合的なコミュニケーション能力」そして「問題解決・異文化理解能力」の話の伺いながら、この「会社設立」活動が学生たちの学びになっているのか確かめたくなった。

「働くことに関する自己概念の形成」から辿り着いたのが **Lave and Wenger (1993)** の実践共同体（興味、関心を共有したメンバーが共同で活動を行う共同体）という考えである。実際、私達の「会社設立」活動も5、6名の学生たちが1つの会社を作り、自分たちがやってみたい職種を決め、会社名、肩書き、担当職を決める。その職業にはどのような仕事が含まれているのか、発展させるにはどのような策があるのか等話し合い・リサーチしながら、1学期間（13週）を通してクラス外で進めていくのである。タスクとして「会社概要作成（15-20ページ）」「他の会社との協同プラン作成(Business Corporation)」、そして「全員で会社を紹介する発表」を行うことである。

学期中、常に会社メンバーは席を共にし、社長担当者は「社長」と呼ばれリーダーシップでタスクを進めていく。欠席の学生は「出張中」と報告され、めったにないが「辞職（途中、他の会社に興味を持った為）」「中途採用（希望する会社の社長の面接を経て、途中から別会社へ入社した）」ということもあった。学期最後に、評価の一部を各社の社長に社員貢献度を点数で提出してもらおう。そして社長の評価は教師が行うのである。日本語副専攻は、大学の色々な学科からの集まりなので、クラスに自分の居場所があることは、クラスの雰囲気、出席率に好影響があったように思う。更に荒川（2007:16）の言う「キャリアの確立」（個人が仕事に関する自己概念

を把握し、周囲の状況に柔軟に対応しながら意欲的に自分のキャリアを構築していこうとする考え方や姿勢)にも繋がると考える。

		メンバーの多様性	活動のデザイン	キャリアの 確立 (平均点)
	同質型実践共同体	所属組織や専門領域が同質なメンバー	エキスパートから新入への知識伝達による育成や職場での親しい仲間との交流など、親密な一体感の中で行われる活動	-0.814 点
多様型	サロン型実践共同体	所属組織や専門領域が多様なメンバー	メンバー共同で解を出すことが求められない気楽な情報交換、またはメンバーの違いを意識するようにデザインされていない活動	0.534 点
	創発型実践共同体 (日本語副専攻ビジネス日本語クラス)	所属組織や専門領域が多様なメンバー (多学科の集まり)	メンバー共同で解を出すことが求められる活動、またはメンバーが互いの違いを意識するようデザインされた活動 (タスクと発表の要求)	1.644 点

実践共同体の3つの類型表 (荒川 2007:22 より松本アレンジ)

学生たちはタスクを完成させるために、他の会社メンバーと協同事業について相談したり、会社概要の日本語表現等をメンバーと話し合う。それは「課題達成のための総合的なコミュニケーション能力」と「問題解決・(他社の)異文化理解能力」を駆使することになるのではないだろうか。

前にも述べたように、私たちの会社設立活動(実践共同体)にはさまざまな専攻の学生たちがいる(例:コンピューティング学科、マーケティング学科、英文学科等)。これは正に「所属組織や専門領域が多様なメンバー」ということである。荒川の研究から、私達の会社設立活動は上記のように「創発型実践共同体」であることが確認できた(荒川:p.22)。

また荒川の最終的な調査結果として「多様なメンバーが共同で解を出したり、メンバーが互いの違いを意識するようデザインされた活動に従事する“創発型実践共同体”において、キャリアの確立は最も促される」(荒川:p.25)としている。つまりビジネス日本に於ける会社設立活動は、さまざまな専攻の学生たちに職場のイメージや「今後のキャリアに対する意欲と展望を促している」(荒川:p.24)と考えられる。

現在もコロナ禍のため授業が Online となり、「会社設立」も少し形を変えてはいるが、基本は変えずに活動を継続している。これまで確証もなく行っていた活動だったが、今回の「日本語でのビジネスコミュニケーション能力の育成と向上一理論と実践」で理論を学べたことで振り

返りができ、また「会社設立活動」は将来学生たちのキャリア確立へのサポートとなり得ることがわかった。学生からの感想として「学んだビジネス表現や敬語を、発表や会社概要の文字で使い方の確認ができたのはよかった」という声が多かった。最後に学生たちの会社概要の一部を紹介したいと思う。



参考文献：荒木淳子『企業で働く個人の「キャリアの確立」を促す学習環境に関する研究—実践共同体への参加に着目して—』日本教育工学会論文誌 31 (1), 15-27, 2007.

日本語教育 図書教材案内 by 斎藤 誠

(国際交流基金派遣日本語専門家)



香港・マカオの日本語教育に役立ちそうな、2021年前半発売の図書情報をご紹介します。
(各項目のQRコードは出版元の紹介ページへのリンクです)

1. 産学連携でつくる多文化共生

カシオとムサビがデザインする日本語教育

監修：三代純平、米徳信一

発行：くろしお出版 2021年

https://www.9640.jp/book_view/?853



企業（カシオ計算機）と大学（武蔵野美術大学）が連携し、ドキュメンタリー映像を制作、発表するという産学共同プロジェクトを紹介。キャリア教育としての日本語教育の可能性を探る。社会全体で学び合う環境をつくるヒントがここに。

【関連サイト】

CASIO×MAU「にっぽん多文化共生発信プロジェクト」

<https://web.casio.jp/mau/>

本書のもとになった産学共同プロジェクトのサイトです。プロジェクトで制作したドキュメンタリー映像を配信しています。（出版元 HP より）

2. 「問う力」を育てる理論と実践

著者：小山義徳・道田泰司（編）

発行：ひつじ書房 2021 年

<https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1035-2.htm>



学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。（出版元 HP より）

※日本の学校教育者向けの本書ですが、小山悟先生による留学生対象のアクティブラーニング実践も掲載されています。（斎藤）

3. めしあがれ

食文化で学ぶ上級日本語

著者：畑佐一味、福留奈美

発行：くろしお出版 2021 年

https://www.9640.jp/book_view/?862



日本の食文化をテーマに据えた内容中心の上級レベルの日本語学習者用、日本語読解教材。日本の食文化の多様な面を紹介し、理解を深めることを目的とし、簡単においしく作れる人気の日本食レシピを各章で紹介。本文とレシピは英語訳付で多様な日本語レベルの学習者に対応。

（出版元 HP より）

4. 中級日本語文法を教えるためのアイデア集

著者：岡本智美・松浦みゆき・角田亮子

発行：ココ出版 2021 年

<https://cocopb.com/books/978-4-86676-028-5/>



文法の授業を楽しくしたい！ 授業を変えたい！ そんな悩みを持つ先生におすすめの 1 冊です。本書には、中級レベルの 157 の文法項目に関する 165 の活動のアイデアがつまっています。豊富な例文とともにクイズ形式や応答練習などの活動案が提示されているため、すぐに授業に利用可能です。また、活動タイプに合わせた進め方や指示の例も掲載。授業設計のサポートとなるでしょう。学習者が、楽しく、無理なく文法の練習ができるヒントが満載です。

（出版元 HP より）

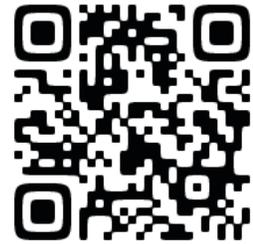
5. 改訂版

日本語教師のための新しい言語習得概論

著者：小柳かおる

発行：スリーエーネットワーク 2021年

<https://www.3anet.co.jp/np/books/4831/>



2004年発行『日本語教師のための新しい言語習得概論』の改訂版です。言語教育において言語習得研究は関心が高く、海外でも盛んに研究されている分野です。本書では日本語教師に向けて、特に「教室習得」の分野を紹介することを目的としています。

第1部では第一言語習得研究について、メインとなる第2部では第二言語習得研究について、1970年前後の研究のスタートから現在に至るまでの研究成果を踏まえ、様々な「理論」や「アプローチ」を紹介しています。

改訂にあたって、「社会文化理論」「インターアクション研究の新たな展開」「多言語・多文化共生」「複言語・複文化主義」など、最新の知見を取り入れています。（出版元 HP より）

6. 日本語発音みえる化シート

著者：なな先生

発行：コトリドリル 2021年

<https://minne.com/items/26525639>



発音や滑舌の指導をする言語聴覚士が、臨床の現場で感じた、「あったらいいな」をカタチにしました。

- 日本語音声の正しい発音方法を、患者さんや生徒さんに解剖図で説明できる図解プリントです
- 子音を発音している場所を、解剖学上の位置とリンクして図示し、地図のように目で見てわかるようにしました

指導を受ける人に発音位置を視覚的に伝えることで、発音練習・リハビリにさらなる成果が期待できます。台紙から1枚ずつ剥がしてお使いください。

ご指導の際、指導内容や発話時・発音時の注意点などを図に直接書き込み、患者様・生徒様にお渡しください（販売 HP 紹介文より）

7. オンラインでもアイスブレイク！ベスト 50

不慣れな人もほっと安心

著者：青木将幸

発行：ほんの森出版 2021年

<https://www.honnomori.co.jp/isbn978-4-86614-121-3.htm>



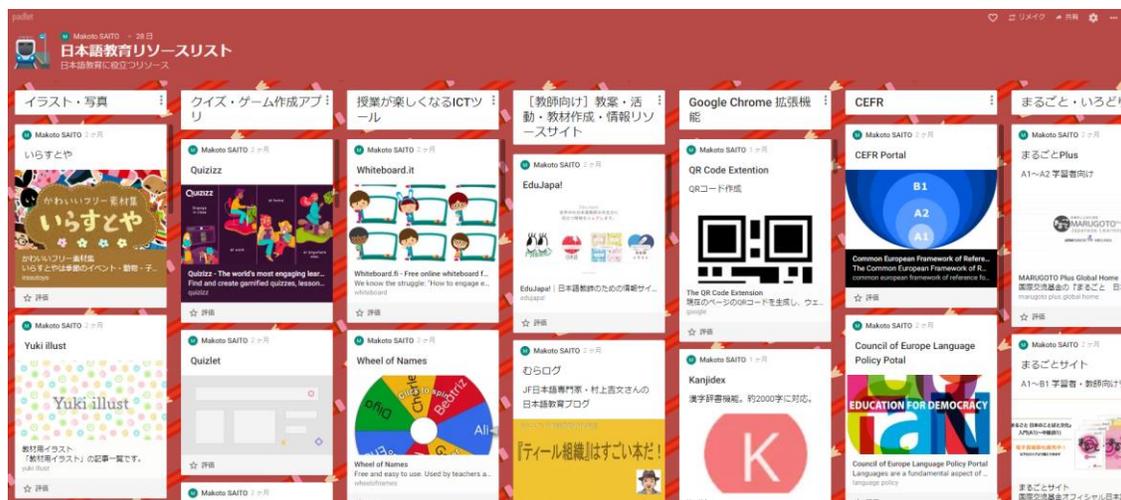
本書では、オンラインでの会議や研修会、授業などで硬くなりがちな雰囲気をはぐす、厳選した50のゲームやひと工夫を紹介します。オンライン会議ツールに慣れながらのアイスブレイクや、オンラインならではのアイスブレイクなど、すぐに使える「技」が楽しく学べます。

(出版元紹介文より)

【おまけ】日本語教育 ICT リソースリストをシェアします！

斎藤がインターネットでコツコツ集めた、授業の準備、実施、学習者向けに役立つ（かもしれない）いろいろなリソースを Padlet で自分用の備忘録としてまとめたものです。イラスト、ICT ツール、「まるごと」など国際交流基金開発のリソース、文化リソース、動画編集、多読、音声ツール、学習者向けリソースなどジャンル別にまとめています。ぜひご活用ください。

<https://bit.ly/ressourceSAITO>



※過去「香港日本語教育フォーラム」内「図書教材案内」は以下のリンクからご参照ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/publish/index.html>

※2018年までの「図書教材案内」のバックナンバーは以下のリンクからお読みいただけます。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/library.html>

香港日本語教育研究会カレンダー (2021年春夏)

※2021年4月現在。

最新の情報は以下のURLにてご確認ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/activities.html>

日時	名称・会場・詳細等
4/10 (土) pm2:00-4:00	<p>月例会 (4月) DSE 日本語試験とはどのようなものか オンライン開催 (実施済み) https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/gaiyo/gaiyo2104.pdf</p>
4/17 (土) pm2:00-4:30 4/21 (水) pm2:00-4:30	<p>日本語教育オンライン・ミニワークショップ 広東語母語話者のための日本語発音学習レシピを作ろう オンライン開催 (実施済み) https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/WS_April.pdf</p>
4/24 (土)	<p>第16回香港小中高生日本語スピーチコンテスト https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/speech/2021/details.html ビデオ審査 (実施済み) 【部門】 ①小学生 暗唱の部 (詩の朗読) ②中学生 暗唱の部 (詩の朗読) ③中学生 朗読劇の部 (既定のスク립トあり) ④中学生 スピーチの部 ※審査結果は4月末に当会HPにて発表予定です。</p>
受付中!	<p>2020-21 香港日本語教育研究会奨学金 【日本語副学士・HD部門】 個人・グループプロジェクト 締め切り: 5月21日 【高校生部門】 個人・グループプロジェクト 募集開始! 締め切り: 7月23日 https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/scholarship/2020/index.html</p>



日々の授業、教材などのお悩み、相談など、日本語教育専門家に聞いてみたいことを募集します。小さなお悩みも大歓迎です。あて先：sojlehongkong@gmail.com



本号で特集した香港日本語教育セミナーは、昨年12月に続き短期間で次回が開催されました。新型コロナウイルスの流行により、日程が変更になったためですが、オンラインにより香港・マカオのみならず20か国あまりの国・地域からご参加いただいたことに感謝申し上げます。これからも参加者間での交流や、それぞれの現場に「お持ち帰り」できるリソース、アイデアが生まれる場として、来年3月の本セミナーに向けて企画準備は既に始まっています。次回にもご期待ください。本号を読んでの皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

【お知らせ】斎藤は5月末で任期を終え帰国いたします。編集に携わるのは本号が最後となりました。これまでご愛読下さり、心より御礼申し上げます。今後とも「香港日本語教育フォーラム」をよろしく願い申し上げます。(斎藤)

香港日本語教育フォーラム

第4号 (2021年4月発行)

発行：香港日本語教育研究会 香港日本語教育フォーラム編集委員会

編集委員：斎藤誠（編集委員長） 梁安玉 村上仁 陳鴻輝

<https://www.japanese-edu.org.hk/>

[バックナンバー] 以下のアドレス内「ニュースレター」タブをクリックして下さい。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/publish/>
